

令和5年10月16日

デジタル技術の活用及びDX推進の取り組み状況

株式会社GVH

1. デジタル技術の重要性

デジタル技術の活用は、顧客満足度を向上させ、当社の競争力に対し好影響を及ぼす非常に重要な要素だと考えています。

具体的には以下の3点より、競合優位性が高まります。

A) 労働生産性の向上

富士DR CALNEO Flow V47 はカセット読み込みの手間を省き、画像表示までの時間を圧倒的に短くすることで、診察時間が大幅に短縮されます。また、上記機器と富士超音波診断装置 ARIETTA650DeepInsight、及びコーワ スリットランプ SL-19plus は得られた画像を一元管理することができるため、これまで手作業で画像を確認・仕分けしていた手間が省かれます。最新のデジタル技術を活用することで、院内の労働生産性を向上させます。

B) 見える化の推進

富士DR CALNEO Flow V47 および富士超音波診断装置 ARIETTA650DeepInsight は、これまで視覚的に把握することが難しかったペットの生体内の状況を、デジタル技術により飼い主様に目で見て理解していただくことが可能になります。また、メニワーン アイリスベット light cPLR Tester は、一見分かり辛い眼の症状を見てわかるかたちで提示します。より理解をして頂いた上での治療を進めることで、インフォームドコンセントを徹底します。

C) 安全性の向上

医療現場において、安全性を向上させ医療ミスの可能性を極限まで低くすることは、レピュテーションリスクを低減するためにも非常に重要です。デジタル技術により術中の作業を自動化することで、人為ミスがなくなり、安全性が向上します。

2. 上記を踏まえた弊社の経営ビジョン

「デジタル技術を十分に活用して、高度かつ待ち時間の少ない医療を提供する
地域随一の1.5次診療施設へ」

当院は本事業を通じて、癌や白内障など高齢ペットの増加に伴い複雑化し、増え続ける症例に対応した設備を導入し、高度で待ち時間の少ない医療を提供します。デジタル技術の活用により当院内と患者、飼い主様にとって多くのメリットを持ちます。顧客満足度の向上によって患者数が増加し、経営面で弊社に寄与します。

3. 当社の経営ビジョンの実現のための戦略

- 他機器に関しても一元管理するなど、今後継続的にデジタル化の検討
- デジタルリテラシーを強化する教育

令和5年10月16日

- 上記をより推進するための外部専門家との連携

4. 戦略推進のための組織体制

